

はじめに——いまエコノミストは「幸福」研究の最先端にいる……

10

第一部へのプロローグ

Ⅰ 富と貧困の謎

第1章 ● 歴史探偵……

22

なにかが経済を繁栄させ、また失敗させるのか

歴史理論と対決するデータ

西洋が経済発展をとげた転換点はいつか

離陸^{テイクオフ}要因は植民地の収奪か、内在的プロセスの加速か

経済変数を検証する

近代的成長への推進力はなにか

最新の証拠

エコノミストは、情熱的なオタク？

第2章 ● なにかが経済を成長させるのか……

58

経済成長は、料理よりもダンスに似ている

古典派経済学——ルーツから非主流派まで

新古典派——限界収獲逓減とその問題

ポスト新古典派——内生的成長モデルとスピルオーバー

近代的成長理論——人的資本と知識における収獲逓増

・規模——理論における「皺」

・地理——場所ごとに異なる成長パフォーマンス

・歴史——転がる雪だるまを止める方が、雪だるまを転がすよりも簡単だ

・制度——成長は社会の集団的能力に依存する
バック・トゥ・ザ・フューチャー

第3章 ● いかにして貧困を過去のものとするか……

96

薬効のない万能薬

データが明かす貧困問題の核心

開発経済学の功罪——援助は貧困を解決しない

貧困は起こるべくして起こるのか

・地理——気候などは、経済を運命づけるか

・歴史——腐敗、所有権原、制度的遺産

ビッグ・プッシュより、クレバー・プッシュを！

グローバリゼーションは良いことか

援助の呪い

開発経済学の新機軸

II 個人は自由を選択できるか

第4章 ● 経済学は幸せにどう役立つか

なにが人々を幸せにするのか

GDPは正しい尺度なのか

「快樂のランニング・マシーン」と「選択の逆説」

幸せを目指す政策

「幸福」と「満足」の違い

144

第5章 ● 人間のための経済学

「合理的な愚か者」を超えて

人々はよく考えることに慣れていない

・ 感応度逓減性、プロスペクト理論

・ どのようなバイアスが判断に影響を与えるか

・ 提示の仕方が、人々の選好を動かす

心理学をいかに経済政策に応用するか

実験経済学——まったく新たな市場などを検証する

神経経済学——人に聞くな、脳に聞け

173

行動経済学——心理学と経済学の結婚の行方

第6章 ● 情報と市場

情報経済学と市場の限界

応用経済学に欠かせない「非対称情報」

逆選択とモラルハザード

シグナリング、スクリーニング

プリンシパル・エージェント問題

効率的市場仮説——情報市場は世論調査よりも優れている

排出権取引が広まる理由

情報市場の予測はなぜ当たるのか

予測市場の三つの形態

本命——大穴バイアス

意思決定のメカニズム

III 自然、市場、社会

第7章 ● 殺気立った猿と起業家

252

進化経済学のダイナミズム
ユニバーサル・ダーウィニズム
変異・選択・複製
企業と市場の共進化
ゲーム理論
弱いきずなの強み

第8章 ● 経済と社会

偉大な田舎者が生んだ「公共選択アプローチ」
投票行動から、政治的景気循環まで
新制度派経済学——取引費用アプローチと良きガバナンス
ネットワーク・ツール
社会的規範——犯罪率は各国でなぜ異なるのか
社会関係資本とはなにか
・「信頼」はプラスにもマイナスにも働く
・フォーカル・ポイント
・文化と制度、どちらが重要か
「市場」対「政府」を超えて

286

第9章 ● なぜ経済学に魂があるのか

経済学は黄金時代を迎えているのだが
経済学は「自閉症」的か
エコノミスト批判に答える

- ・エコノミストはどう見られている？
- ・数式に頼りすぎ？
- ・科学的方法論で、人間の文化・社会がわかる？
- ・エコノミストって右派？
- ・エコノミストは傲慢？

なにが経済学を変えたのか

- ・コンピュータ能力の増強
- ・データセットによる実証研究
- ・計量経済学のテクニク向上
- ・シミュレーションの利用
- ・実験——繁栄する孤島
- ・ゲーム理論あるいは経済学の帝国主義
- ・非線形動態モデル

経済学は、この四半世紀で巨大な進歩をとげた
政策に取り入れられ、成功した実績

324